

取引環境と長時間労働の改善に向けた ガイドライン(紙・パルプ編)の骨子案について

1. 基本的な考え方

- とくに荷待ち時間の長い輸送分野に特化して、課題の洗出し、原因分析、課題の類型化を行った上で、課題解決のためにサプライチェーンの各関係者が取組むべき具体的な取組メニュー等を示すことで、サプライチェーン全体でトラック輸送の生産性向上や物流効率化に取り組むことを求め、当該輸送分野のトラック運送事業における取引環境の改善及び長時間労働の抑制の実現を目指す。
- 課題解決のためにサプライチェーンの各関係者が取組むべき具体的な取組みメニューについては、アドバンス事業（今年度の実証実験）や過去の実証実験の結果から一般化して提示する
- 本ガイドラインのサプライチェーン全体への周知方策や、来年度以降も引き続き課題解決に向けて取り組んでいく姿勢を提示する。

2. ガイドラインの骨子案

【まえがき】～現状と課題～

- 懇談会での意見や追加調査等から把握した現状を記載
- 課題を類型化して提示

反映

実態調査

アンケート調査

【本編】～課題に対する解決の方向性・具体的な解決方策～

- 類型化した課題ごとに解決の方向性を提示
- アドバンス事業や過去の実証実験の取組みから、解決策を一般化して提示
- アドバンス事業やヒアリング調査から具体的な取組み事例を紹介（効果、導入にあたっての留意点等）

反映

アドバンス事業

コンサルティング事業（H30）

パイロット事業（H28・29）

ヒアリング調査

【あとがき】～今後の取組み方針～

- サプライチェーン全体への周知方法等を記載
- 引き続き現状・課題把握や課題解決方策の検討を行うことを記載

「取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン(紙・パルプ編)」 本編のイメージ

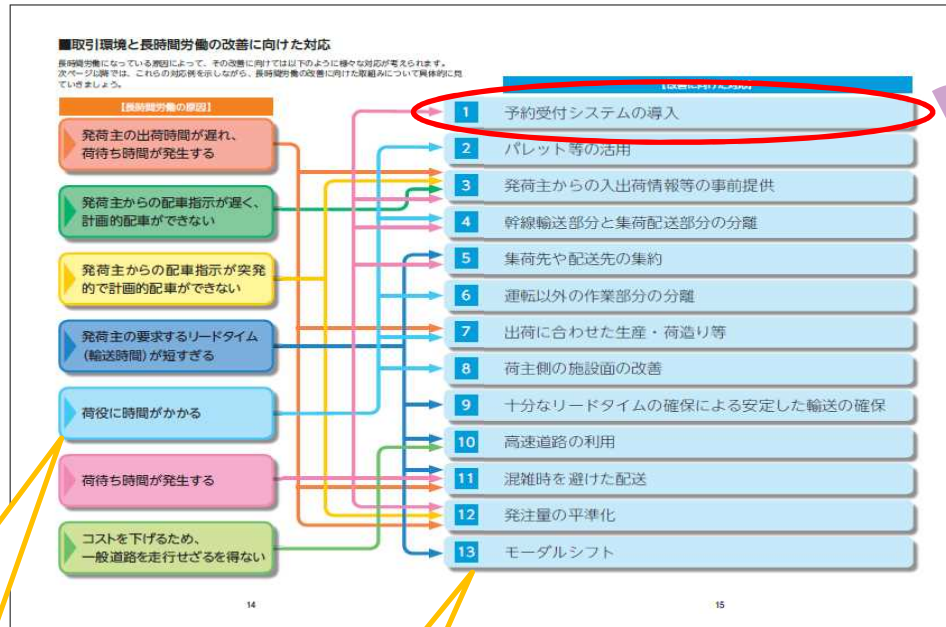
※現在調整中の事項もあるため、内容が変更となる場合がある。

【洋紙・板紙物流における課題の特徴】

製紙産業は技術開発の要素が少なく、他社との商品による差別化が難しいことから、商品以外の部分（リードタイムや納品方法等）での競争が行われてきた結果として、不十分なリードタイムでの発注や少量多頻度納品といった商習慣が定着し、これが運送事業者やドライバーの負担増につながっている。

現状	課題	解決方策	
もともと設定していた発注期限が守られず、注文確定から納品期限までの期間が短い。	効率的な積み合せの調整を行うことができず、低積載率での運送となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 発注元に対し発注期限の前倒しを要請 単数発荷主の複数倉庫での積み合せ配送や、複数発荷主での共同輸送 	<p>【参考となる事例等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 洋紙代理店の共同配送実証実験の結果を紹介 若洲共同物流の取組みを紹介 発注期限の厳格な運用を行っている事例の紹介 リードタイムに関するアンケート調査結果を参考資料として別冊に掲載
在庫スペースが少ないため、必要な量を必要なタイミングで運送している。	少量多頻度納品となっている。		<p>【参考となる事例等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予約受付システムの導入事例及びその効果、導入検討時の留意点等について紹介 荷待ち時間アンケート調査結果を参考資料として別冊に掲載
荷卸し時間が同じ時間帯に重なる等により、限られた荷役スペースに多くのトラックが集中する。	長時間の荷待ち時間が発生している。	<ul style="list-style-type: none"> 予約受付システムの導入 	<p>【参考となる事例等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 段ボールの生産計画の共有実証実験の結果を紹介
発注元の生産計画がわからないため、見込み配車が発生する等計画的な配車ができない。	長時間の荷待ち時間が発生するとともに、少量多頻度納品となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 発荷主との生産計画の共有 	<p>【参考となる事例等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 雑誌業界における物量平準化に向けた取組みを紹介 他品目における発注量平準化事例を紹介
運送する物量に繁閑差がある。	繁忙時には車両不足や荷待ち時間が発生する一方で、閑散時には積載率の低下等が発生する。	<ul style="list-style-type: none"> 発注量の平準化 	<p>【参考となる事例等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 附帯作業アンケート調査結果を参考資料として別冊に掲載
「車上渡し」が原則でありながらも、着荷主側の人手不足等により、ドライバーが附帯作業を行っている。	契約上不明確なままドライバーによる附帯作業が行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ドライバーが附帯作業を行う場合は、当該作業内容を契約上明確にし、料金収受を徹底する 	

(参考)「取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン」



課題解決方策ごとに参考事例を紹介

課題を類型化

課題に対応した解決方策

対応例 1 予約受付システムの導入

●先に到着したトラックから順番に荷積み・荷出しが行われる場合には、早い順番を取るために多くのトラックが集荷先・配送先に必要以上に早く到着する場合がありますが、荷出し・荷受けについては処理能力の制約があるため一定のペースで行えず、結果として、長時間の荷待ちが発生する可能性があります。

●こうしたケースでは、予約受付システムを導入・活用して、バース毎での荷役予定時間をあらかじめ決めることにより、

- ①トラック運送事業者による到着時間を越えた運行計画の策定
- ②発荷主側による庫内作業の準備が可能になり、荷待ち時間を減らすことができます。

●荷主にとっては、あらかじめ庫内作業の準備を進めることにより、荷受け作業を効率化することが可能になります。

事例① 一貫/レセプションと受付予約システムで発荷主滞在時間を短縮 (山崎製パン株式会社)

●発荷主が外販倉庫活用を前提とした生産計画の組み換えを行った

●元請事業者が入庫場・進捗管理システムを構築し、トラック運送事業者に公開した

●買運送事業者がシステムを活用して、ドライバーの出発時刻の調整を行った

●発荷主が外販倉庫活用を前提とした生産計画の組み換えを行った

●元請事業者が入庫場・進捗管理システムを構築し、トラック運送事業者に公開した

●買運送事業者がシステムを活用して、ドライバーの出発時刻の調整を行った